

2025 年 8 月 6 日(木)

「あの暑い日」再び

今年もまた、「あの暑い日」が訪れました。今年は戦後 80 年の節目ということもあり、多くの新しい図書や映画、展示会などが公開されています。個人的な経験から言えば、小学生の時は、8 月 15 日「終戦記念日」は登校日となっており、全校集会で校長先生より「戦争と平和」について話を聞いたり、小学校 5 年生の希望者は夏休みにユネスコの支援でヒロシマ研修旅行が行われていた記憶があります。

本校でも、今年の特別講座『A 知探 Q の夏』でも中学生の希望者 35 名と地歴科教員 3 名が長崎にて見学や研修、また活水女子高等学校平和学習部との学習・交流会も行いました。

私にとっての今年の夏は、7 月 20-21 日にグリナード永山で開催された『高校生が描いたヒロシマ』企画展に出かけました。これは 2004 年から広島県立基町高等学校の創造表現コース生徒たちが取り組んでいるもので、被爆者の方から聞いたお話をもとに当時の服装や建物などをできるだけ忠実に描いた、いわば高校生と被爆者の方との共同作品です。今では全国各地で巡回展示されており、多摩市でも毎年開催されています。そのリアルな表現にまるで音さえも聞こえてくるような錯覚を覚える作品群です。

また、7 - 8 月に鑑賞した映画は 3 本。いずれも戦争と平和に関わる作品ですが、ここでは 2 本紹介しておきます。

まず、井上 ひさし(1934-2010)原案のこまつ座上演の舞台劇を映画化した『木の上の軍隊』。1945 年 5 月、連合国軍による沖縄本島上陸作戦の直前、本島の北東にある伊江島で実際にあった上官と地元出身の新兵との話。太平洋戦争時の教育の中で育った二人は、島全体が「不沈空母」と称して最前線となり激戦となった伊江島で、戦争が終結したことを知らず 2 年間もガジュマルの木の上で生活したという実話に基づく物語です。生死をかけた二人が織りなす戦争への意思と感情の変節。主題歌は、沖縄方言で「北極星」を意味する『ニヌファブシ』、歌手は伊江島出身のシンガーソングライター Anly が担当しています。

もう一つの映画、『長崎 - 閃光の影で -』は 1945 年夏、原爆投下直後の長崎を舞台に、被爆者救護にあたった若き看護学生の少女たちの姿を描いた物語。当時の様子を 35 年後にまとめた手記をもとに、自身も長崎出身の被爆三世である松本 准平が監督・共同脚本(+保木本 佳子)を担当しています。原案となった『閃光の影で - 原爆被爆者救護赤十字看護婦の手記 -』に体験を寄せた元看護学生のひとり、山下 フ

ジェさんが特別出演しています。ナレーションは、10歳の時に長崎で原爆を体験した美輪 明宏が担当。なお、映画の主題歌は、監督のオファーを受け、同じ長崎出身の福山 雅治が2014年に発表した『クスノキー』をアレンジした楽曲が使われています。このモチーフとなったクスノキとは、爆心地から800メートルの地点で被爆し、一時は枯死寸前となりながらも驚異の生命力で今なおたくましく生き続けている山王神社(長崎市坂本2丁目)の『被爆クスノキ』のことです。

いずれも、出演者やロケなど、伊江島と長崎にこだわったつくりとなっており、スタッフやキャストの思いのこもった作品となっています。戦争の反対語は平和ではなく、80年前を「歴史」とするのではなく、今を考える問題として、ぜひ皆様もご覧ください。

石飛 一吉

参考

■映画

『木の上の軍隊』監督・脚本:平 一紘 原案:井上 ひさし

制作:2025年 上映時間:128分

主演:堤 真一、山田 裕貴、津波 竜斗、川田 広樹(ガレッジセール) ほか

『長崎ー閃光の影でー』監督:松本 准平 原案:日本赤十字社長崎県支部

制作:2025年 上映時間:109分

主演:菊池 日菜子、小野 花梨、川床 明日香、山下 フジエほか

『ハルビン』監督:ウ=ミンホ

制作:2024年韓国 上映時間:114分

主演:ヒョンビン、パク=ジョンミン、チョ=ウジンほか